

人権だより

No.284(2021.10)

SNSと人権

進路部課長 小池 長八郎

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)は周りや世の中の情報を得るのに大変便利なツールとなりました。最近では情報を得るだけでなく、自身の情報を発信することで身近な自己表現の場としても活用されることもあります。大変便利な道具ですが、便利な一方、使い方によっては相手や自分自身を傷つけてしまう怖い一面もあります。

例えば写真。画像や動画に写り込んだ背景(電柱やマンホール)から、住所などの個人情報や活動範囲を特定されることがあります。瞳に写った景色や自宅の窓の光の入り方など、

画像のほんの些細な情報でも撮影場所など特定することができるようです。また、背景にほかの人が写り込んでいる場合、投稿者でなく写り込んでいた人がターゲットとなってストーリー被害にあうこともあるため、投稿するときは細心の注意をはらう必要があるといえます。

そして書き込み。「拡散希望」という言葉に操られて事実と違うことを拡散したり、その時の感情にまかせた書き込みがきっかけで、トラブルに発展するケースを聞いたことがある人もいるかと思います。また、正しくない不確かな情報でもネットでは正当化され、関係が一切ないような人でも、その情報によって個人情報を書き込まれたり、誹謗中傷を受けることもあります。過去に、服装が似ていただけの理由で犯罪者扱いされ、ネット上で実名・顔写真等を拡散されてしまったという事件もありました。

「デジタルタトゥー」ということばがあります。一度炎上するとたった一回の投稿でも急速に拡散し、情報を完全に削除するのは困難になることから、こう呼ばれます。特に怖いのは、過去の投稿まで探られて通っている学校やアルバイト先から、本名や住所、顔写真などまでインターネット上にバラまかれるという事態が起こってしまうことです。本人だけでなく家族や学校や職場にまで大きな影響を及ぼす可能性を持っています。(裏面に続きます)



個人情報を書き込んだり、誹謗中傷をしたりすることは絶対に許されない行為です。
「表現の自由」とよく言われますが、誰かの人権を侵害する自由はありません。無責任な
投稿や書き込みは、相手の心を傷つけるだけではなく相手の権利を奪います。悪意のある
言葉は、その一言でときに誰かを追い詰め、命を奪うことさえあります。
コロナ禍でなかなか学校外でのコミュニケーションがとりにくい今、SNSはお互いが自宅
にしながら連絡が気軽に取り合える大変便利なツールです。気軽だからこそ、写真や動画
を投稿する前に、その言葉を書き込む前に、一度立ち止まって考えてほしいと思います。

【人権委員の声】

SNS に投稿した背景でさえも特定されてしまうということに驚きました。一度投稿すると消すことはできないので気をつけて試用しないといけないと改めて思いました。今では誰もが使っているものなので、正しく便利に使えるようにしたいです。(6年 船田悠斗)

SNS は多くの人々が利用しているツールで、僕も利用しています。便利ではあるが、そういった怖い一面もあるので、些細なことでも、一度立ち止まるなど、細心の注意をはらいたいと思いました。(6年 水野祥太郎)

SNS は情報を得ることができたり、自ら情報を発信することができたりと、とても便利な道具となっていますが、その反面、一度拡散された情報、言葉、画像は二度と消えません。だからこそ、一人一人が情報を発信する前に、本当に正しいのかどうか、判断する必要があると感じました。(5年 沖田央菜)

SNS はとても便利な分、使い方をまちがってしまうと怖いことになってしまうというのを改めて分かりました。一度立ち止まることは難しいことではないと思うので、これからも使う時は気をつけて使いたいなと思いました。(3年 田中深夏)

SNS はよく考えて使わないと思いました。最近、SNS を使う回数が増えてきている時世だと思うので、自分が使うときはうそをうそと見ぬける人になり、責任を持って使用したいと思いました。(1年 岡部佑吾)

